

令和5年度第1回沼田市総合教育会議会議録

1 開催日

令和5年9月26日（火）

2 場所

テラス沼田 庁議室

3 出席者

沼田市長 星野 稔

沼田市教育委員会

教育長 竹之内 篤

委員 高橋 昭紀

委員 中村 春夫

委員 永井 和恵

委員 武藤 英子

事務局

北澤昇教育部長、角田紀男教育総務課長、林武史学校教育課長、小野利明生涯学習課長、原澤秀樹文化財保護課長、生方純也スポーツ振興課長、栗原満博教育総務課長補佐

4 開会 午前9時25分

5 市長挨拶

6 会議録署名人の指名

市長が中村春夫委員を指名

7 意見交換

議長：星野市長

テーマ

（1）ふるさと学習の推進について

○学校教育課長から、ふるさと学習の推進について説明

◎主な意見

高橋昭紀委員)

- ・ 地域を知る学びとしての「まち歩き」「まち探検」等は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったと思うが、自分の目で見て触ったりする学びは記憶に残るので、各学校でどんどん再開してもらいたい。地元を知ることが大事なことであり、地域の方を招いて講演してもらっても良いと思う。学んだ事柄をICTの活用によって他校と共有すれば、お互いの学びが市全体に広がると思った。「吹割の滝」等、テレビ番組等で話題になるような市内の名所を知っておくことも大事だと思う。

永井和恵委員)

- ・ 中止となっていた地域のお祭りや運動会が再開してくると世代間の交流も進

む。地域の人と顔見知りになったり、親しくなったりすることで地域と関わりを持つことが大事だと思う。

中村春夫委員)

- ・ふるさと沼田を知るための学習は必要かつ大事なことである。これを進める上で、公立幼稚園以外の保育園や認定こども園等との連携や、小学生が多く利用する学童保育施設との連携も必要だと思う。

武藤英子委員)

- ・子供たちの成長のため、市でふるさと学習を推進していただければ保護者は助かると思う。地域と学校が両輪となり、力を出し合って推進されることを願う。

市長)

- ・直近の市議会でも少子化の対応や取組に対する意見や質問が多かった。令和3年度の出生者数は沼田市全体で188人であり、利根郡では125人だった。子供たちの教育が未来の沼田を作ると考えており、その視点を持ちながら、各委員の意見を参考に進めていきたい。

(2) 夜間照明設備の現状と今後について

○スポーツ振興課長から、夜間照明設備の現状と今後について説明

◎主な意見

高橋昭紀委員)

- ・夜間照明設備のLED化については、少子化や人口減少によって使用頻度が少ない施設は廃止もやむを得ないと思うが、利用が多い施設については予算化して進めてもらいたい。

永井和恵委員)

- ・学校を統廃合していく流れもあるので、夜間照明設備についても施設を集約させる等の対応が必要と思う。

中村春夫委員)

- ・施設の利用状況や施設を集約化を進めてもらい、地元地域や利用者に早めに計画の内容を周知してもらいたい。

武藤英子委員)

- ・施設の集約化は時代の流れで致し方ないと思う。的確に進めてもらいたい。

市長)

- ・各委員の意見は、人口減少や社会情勢を考えると、施設の集約化等について理解が得られたものと認識した。夜間照明設備の地元地域に対しては、説明等について配慮したいと考えている。

多額の経費がかかるので、的確に判断して計画的に進めたい。

(3) その他

○以下について意見があった。

- ・大学生と小中学生の交流について
- ・小学校低学年児童のトイレ利用について
- ・玉原高原等を活用した学びや観光について
- ・総合教育会議の開催頻度についてなど

8 閉会 午前10時20分